

清光学園 100 周年記念式典式辞

本日ここに、清光学園 100 周年記念式典を挙行政致しましたところ、公務ご多用な中、また厳しい残暑の中を、岡崎市長中根康浩様、愛知県立岡崎商業高等学校校長小川浩司先生をはじめ多くのご来賓の方々にご臨席を賜り、心より篤く御礼申し上げます。併せて、今日まで学園の発展にご尽力とご支援を賜りました学園ゆかりの方々や地域の皆様に、深く感謝申し上げます。

清光学園 100 年の歴史の第一歩は、大正 13 年（1924 年）に、岡崎市内に在る一乗寺の一室で踏み出されました。当時、新聞記者の傍ら、本多清光のペンネームで著作活動に勤しみ、幼児に童話を語り伝えていた本多由三郎先生は、一乗寺で寺子屋保育をされていた若き僧侶の安間公観師に協力して、この場を幼児教育の場にすべく整備を始めました。清光学園は、本多先生が、後に嫩幼稚園となるこの一室で幼児教育に着手したことを、学園の源流としています。

その後、本多先生は、幼稚園の教育には優れた保育者が必要である、との信念を固くしますが、その獲得は難しく、「それなら自分で！」と保育者養成のための短期大学設立を決意します。ここ灯台山の整地の最中に大けがを負ったり、47 回も文部省に出向いて申請書類を整えたりと、艱難辛苦の末、岡崎女子短期大学保育科を開設したのは、1965 年、幼児教育に着手して 41 年後のことです。その 4 年後には、様々な事情で進学が難しかった全国の女子高校生のために、第三部、すなわち勤労学生として通学できる昼間定時制を設置しました。本学の卒業生が全国で活躍しているのは、このような事情にも拠っています。

ジャーナリスト、文筆家、易学研究家など、いくつもの顔をもっておられた本多先生ですが、全身全霊全財産を注いだのは、幼児教育であり、短期大学と学校法人の運営でした。

岡崎女子短期大学は、その後、初等教育学科、経営実務科、人間福祉学科を設置しますが、それぞれの学科は社会的役割を全うして閉科し、現在は幼児教育学科第一部及び第三部で保育者の育成に努めています。

岡崎女子大学子ども教育学部は、4 年制大学人気とより質の高い保育者・教育者への要望を背景に 2013 年に開学し、小学校教員免許状や学内資格のインクルーシブ教育士の取得など、レベルアップを続

けています。4年制大学の設置を切望しながら、ご自身の手では実現
かなわず、1978年に世を去られた本多先生の「やっとできたなあ」
の声を聞いた気がしました。

一方、嫩幼稚園に続いて、第一早蕨幼稚園、第二早蕨幼稚園が開園
し、2022年には豊田市からの移管により、幼保連携型認定こども園
たかねこども園の運営を始めています。附属4園は、心を動かして
自ら取り組もうとする力や自分も他者も大切にしながら協働する力
など、非認知能力の重要性に着目し、一人ひとりの園児の人生が力強
く豊かにスタートすることを目指して、実践の成果や課題を共有し
切磋琢磨しています。

さて、現代は、情報や通信、医療やエネルギー関連の分野、また経
済学など社会科学の分野でも、横断的に、劇的なスピードで研究や技
術開発が進む中、地球環境問題や絶えない紛争などが懸念され、確か
な未来を見通すことが困難になっています。しかしながら、人格の基
盤を培う乳幼児教育の意義と必要性、また信頼して子どもを託せる
保育・幼児教育への要望は、これからも続きます。初等・中等教育の
場に在る児童・生徒の創造性や個性を引出し、最適な学びを創って
いける教育専門家への期待も高まっています。

清光学園は、質の高い幼児教育・保育の実践とともに、大学・短大
では自由と創造を教育の生命として、自己実現と社会貢献を建学の
精神に据え、教育・保育人材育成に邁進してまいりました。この間、
理想と情熱を絶やすことなく、学園の運営と発展に力を注いでくだ
さった先人方のご功績の偉大さと、その背景にあったであろう無数
のご苦勞を思うたびに、尊敬と感謝の念を新たにしています。

同時に、あまたある大学・短大や幼児教育・保育施設の中から、学
びの場、育ちの場として岡崎女子大学、岡崎女子短期大学、そして付
属園を選び愛して下さった、学生の皆さんや園児さんの保護者の
皆様をはじめ、関係の方々や地域の皆様のご理解とご厚情も比類な
き賜物です。

私たちは、このご功績と賜物を受け継いで、子どもたちや学生の皆
さんと共に、未来を創造していく所存です。大学並びに短大は、学生
が教育・保育の専門家として貢献することは勿論のこと、well-being
を志向する社会の一員として、広い視野と公正で科学的な識見に裏
付けられた知恵と知識を蓄えた人に成長できるよう努めます。また、
教育や保育の場のみならず、地域社会の課題の解決に資する研究を

目指します。

清光学園 100 周年を機に、私たちは、社会と未来にお約束した使命を今一度肝に銘じ、本日お運びくださいました皆様がた、並びに御目文字かなわなかったゆかりの方々に、重ねて 100 年分のお礼と感謝をお捧げいたします。そして、これまで同様、今後も末永くご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げ、併せて皆様のご健勝とご多幸をご祈念申し上げまして、清光学園 100 周年記念式典の式辞と致します。

2024 年 9 月 14 日

学校法人清光学園 第 9 代理事長 林 陽子